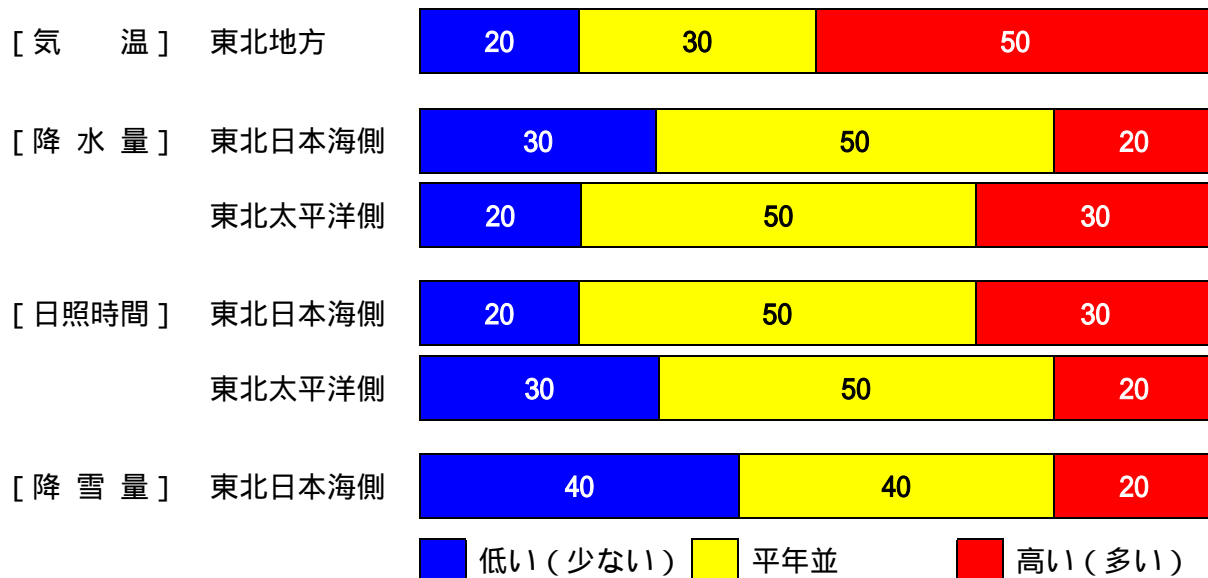


東北地方の1か月予報解説資料(予報期間:2月9日~3月8日)

平成14年2月8日 仙台管区气象台

1. 向こう1か月の気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)



[気 温]: 東北地方は「高い」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「平年並」で、その確率は30%です。「低い」の可能性は20%と小さい。

[降 水 量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

[日照時間]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「多い」で、その確率は30%です。「少ない」の可能性は20%と小さい。

東北太平洋側は「平年並」の可能性が最も大きく、その確率は50%です。次に大きい可能性は「少ない」で、その確率は30%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

[降 雪 量]: 東北日本海側は「平年並」か「少ない」の可能性が大きく、その確率はそれぞれ40%です。「多い」の可能性は20%と小さい。

2．予想される天候の特徴

(最も高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう1か月

期間の初めは冬型の気圧配置が強まり、東北日本海側では降雪量の多くなるところがある見込みです。その後、天気は周期的に変化し、東北日本海側では平年に比べ曇りや雪の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

なお、2週目以降は平年より気温の高い日が多いでしょう。

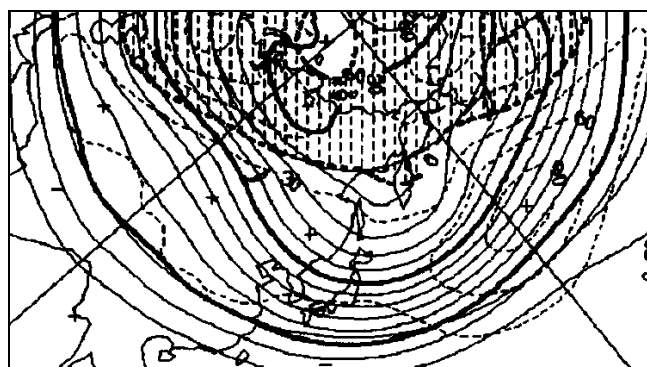
平均気温は高いでしょう。

向こう28日間の平年の晴れ日数：東北日本海側約8日、東北太平洋側約18日

各予報期間の天候の特徴

- | | |
|----------------------------|--|
| 1週目……………
(2月9日～2月15日) | 強い冬型の気圧配置が続き、東北日本海側では雪の降る日が多く、降雪量が多くなるところがある見込みです。東北太平洋側では内陸と山沿いで雪の降る日がありますが、沿岸部は概ね晴れるでしょう。
平均気温は低いでしょう。
平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約5日 |
| 2週目……………
(2月16日～2月22日) | 天気は概ね周期的に変化するでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
平均気温は高いでしょう。
平年の晴れ日数：東北日本海側約2日、東北太平洋側約4日 |
| 3～4週目……………
(2月23日～3月8日) | 天気は概ね周期的に変化するでしょう。東北日本海側では平年に比べ曇りや雪の日が少なく、東北太平洋側では平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
平均気温は高いでしょう。
平年の晴れ日数：東北日本海側約5日、東北太平洋側約9日 |

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

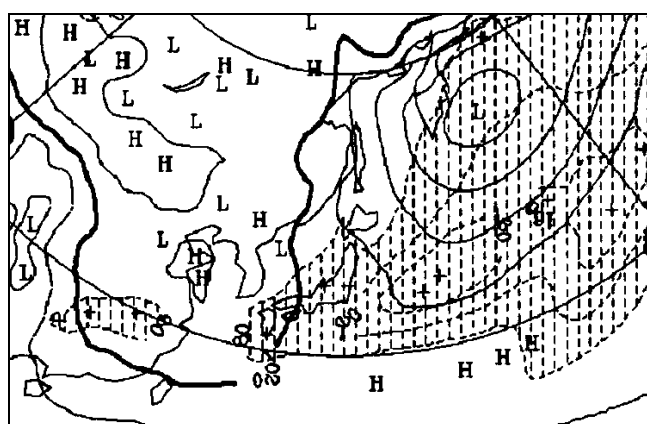


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高線：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・ 500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近を含む中緯度帯は広く正偏差に覆われる。偏西風の流れは東西流が卓越し、天気は概ね周期変化。低気圧の通過後は一時的に冬型の気圧配置となるが、持続的な寒気の南下はない見込み。

週別（図略）では、1 週目に日本付近の谷が深まり、負偏差に覆われる。一時的に強い寒気の南下が予想される。その他は月平均と概ね同様。



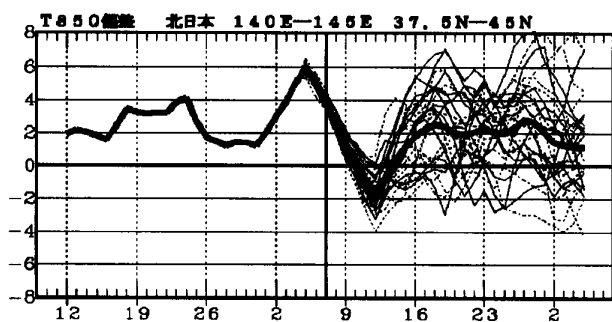
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

・ 地上気圧と降水量

月平均で見ると、大陸に高気圧、カムチャッカ半島付近に低気圧があり、西高東低の冬型の気圧配置となっている。しかし、日本付近の等圧線の間隔は広く、冬型の気圧配置は弱い。

まとまった降水域は日本の南岸沿いから東海上にのび、日本付近を覆う。

週別（図略）では、1 週目に冬型の気圧配置がやや強まる。その他は月平均と概ね同様。



北日本 850hPa の気温平年差の実況と予想

(縦軸：気温平年差() 横軸：日付)

発表日以降の太線は各アンサンブルメンバー（細線）の平均値

・ 北日本 850hPa 気温平年差の時系列

アンサンブルメンバーの平均は、1 週目に平年を下回るが、その後上昇して 2 週目以降は高めに移する。

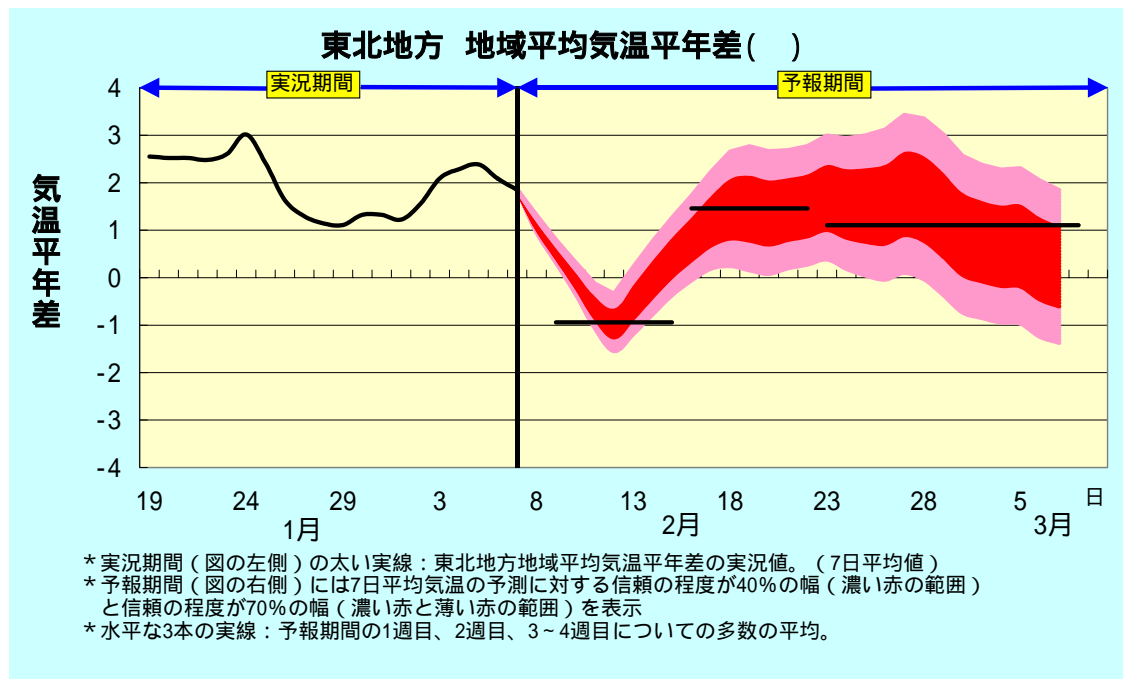
なお、2 週目以降はバラツキが大きい。

3．東北地方地域平均気温平年差の実況と予測結果

週別の気温は、1週目「低い」、2週目、3～4週目ともに「高い」を予測している。

予報は、予測通りとする。

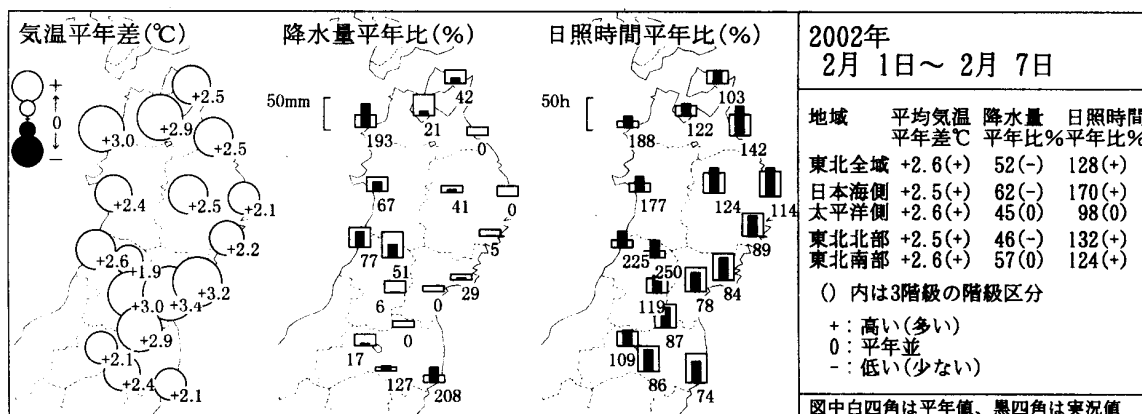
なお、予報の信頼度は小さい。



4．最近1週間（2月1日～2月7日）の天候の経過

期間の初めは冬型の気圧配置となり、東北日本海側では曇りや雪となった。東北太平洋側では晴れるところが多かった。その後は短い周期で低気圧が通過したが、天気の流れは小さく、晴れや曇りで気温の高い日が続いた。

平均気温は、東北地方で平年差+2.6 と高かった。降水量は、東北日本海側で平年比62%と少なく、東北太平洋側では平年比45%と平年並だった。日照時間は、東北日本海側で平年比170%と多く、東北太平洋側で平年比98%と平年並だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）